

金沢市における「忍者パルクール」による “スポーツで人とまちを元気にする”プロジェクト

団体名：金沢星稜大学 地域連携による地域貢献活動グループ 代表者名：池田幸應

1 はじめに（背景・目的・目標）

2015年10月に文部科学省の外局としてスポーツ庁が設置され、全国的にスポーツツーリズムやスポーツを核とした地域活性化に向けた取組が推進されている。金沢市においても「金沢市スポーツ推進計画」（2015～2024年度）が策定され、スポーツによる地域振興が図られている。金沢市は自然、歴史・文化に育まれ、2009年にユネスコ「創造都市」にも認定された歴史・創造都市であり、2018年4月の「金沢市スポーツ文化推進条例」制定により、金沢の風土に根付いたスポーツ文化推進の政策が示された。

2018年5月に日本最初の「忍者パルクール 2018 in KANAZAWA」（全国大会）が金沢城公園内で開催され、筆者も大会実行委員、また本学からも池田ゼミナール学生17名もスタッフとして運営に関わった。本大会には数百名の応援者や観光客に囲まれ、全国から約70名の選手が参加し、その様子は新聞、テレビ・ラジオ等でも報道された。しかし、日本パルクール協会石川県支部メンバーも約10名程度であり、その認知度も未だ低く練習場所確保にも困難な状況である。世界的なパルクール人口急増や今年2019年5月3日～5日開催予定の「忍者パルクール in 金沢 2019」に向けて、「スポーツまちづくりフォーラム in 金沢」開催等によって、「忍者パルクール」による市民のスポーツ文化推進に寄与し、“スポーツで人とまちを元気にする”プロジェクトを実践している。本稿では、その取り組みについて報告する。

*「忍者パルクール」：パルクールは、害物を乗り越えて移動するフランス発祥の都市型スポーツであり、世界中の若者を中心に広まりオリンピックでも競技の候補に上がっている。そのパルクールに日本への印象の1つ「忍者」を絡ませたスポーツ。

2 活動内容

(1) 「忍者パルクール 2018 in KANAZAWA」の開催

①日時：2018年5月4日（金）・5日（土）

②場所：金沢城公園内新丸広場「特設会場」

③内容：忍者パルクール競技（フリースタイル、スピードラン）、キッズコーナー（子どもたちの忍者パルクール体験）

④運営：日本パルクール協会、サムライ金沢株式会社、北陸大学武田・南谷研究室、本学池田研究室〔*金沢星稜大学人間科学部スポーツ学科 池田ゼミナール3・4年次学生（17名）が企画・運営サポートに参画した〕、他



写真1: (左)フリースタイル競技の様子
写真2: (右)スピードラン競技の様子



写真3: 「キッズコーナー」での子どもたちの体験の様子

(2) 「スポーツまちづくりフォーラム」の開催

①日時：11月23日（金・祝）13:30～17:00

②会場：本学本館2階

③内容：「地域資源を活かしたまちづくりの推進におけるスポーツの役割」をテーマに、金沢におけるスポーツまちづくりの今後の展望について検討し、更なる連携・協働へのネットワーク構築に寄与した。具体的には、第1部として、基調講演〔「これからの地域づくりと人づくり」、大宮 登（高崎経済大学名誉教授、地域活性学会名誉顧問/日本地域政策学会名誉会長）〕の後、地域でのスポーツによる地域づくり等についてパネルディスカッションが行われ、第2部分科会〔①マラソン分科会「これからの金沢マラ

ソンを考える」、②パルクール分科会「忍者パルクール 2019 を考える」] が行われた。

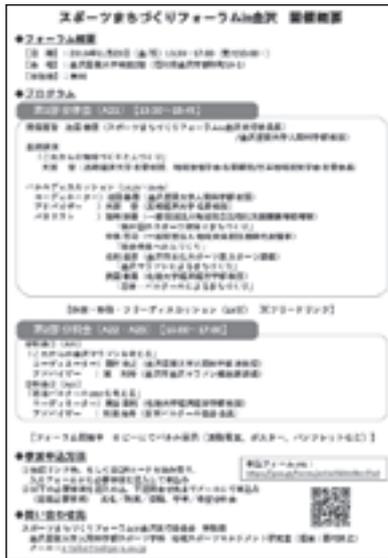


図 1:「スポーツまちづくりフォーラム in 金沢」の開催要項

(3) 「パルクール」(「忍者パルクール」) についてのスポーツ関連施設担当者への調査 [2019 年 1 月]

①調査対象：金沢市内の公的運動施設 (11 ヲ所) における現場指導担当責任者 (39 名)

②調査内容：「忍者パルクール」についての認知度、当該スポーツ施設における「忍者パルクール」実施に向けた現状とその可能性

調査結果から、金沢市内の公的スポーツ関連施設においては、その現場指導担当責任者の「忍者パルクール」に対する認知度も低かった(「知らない」・「あまり知らない」が合計 81%)。

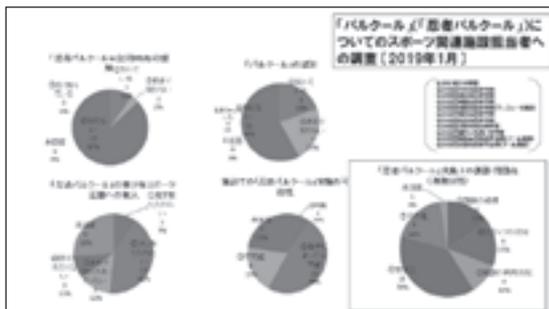


図 2:「忍者パルクール」スポーツ関連施設への調査

(4) パルクール導入保育園への視察・ヒアリング調査 [2018. 12. 10 宮城県富谷市]

①調査対象：宮城県富谷市内の市立保育所 (4 保育所) における保育士及び保護者

②調査内容：パルクールについての認知度、実施

状況、子どもたちへの影響等

当該施設の保護者の多くがパルクール導入に賛成し、今後の継続を望んでいる。

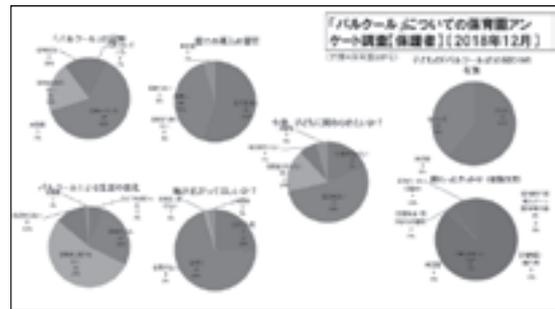


図 3:「パルクール」についての先駆地での調査

3 成果、結果の考察

世界的な「パルクール」人気の流れが日本にも影響し、特に SNS 等の影響で、パルクールが所謂“アクロバティック的なイメージが強調された形で多くの若者に印象付けられている。勿論、パルクールには、競技としての要素や身体運動の高次的な要素を多く含んでいることは、事実であり、またそれが魅力でもあるが、「パルクール=危ない」という誤ったマイナスイメージも作られ始めていることも否定できない。今回の忍者パルクールでは、本来人間の持っている身体運動への本能、そして身体的能力を高めることで可能となる技能修得は勿論ではあるが、特に子どもたちにとっての運動・スポーツのすばらしさや「忍者」をキーワードとした日本、特に金沢市の歴史・文化とスポーツとの融合を目指している。

したがって、2018 年 5 月に開催された「忍者パルクール 2018 in KANAZAWA」での「キッズコーナー」を「キッズプロジェクト」として拡大し、子ども関連企業「株式会社ボーネルンド」とも連携して、次回に向けて現在、企画・準備を進めている。

4 今後の課題、展望

2019 年 5 月 3 日～5 日に開催予定の「忍者パルクール 2019 in KANAZAWA」に向けて、“学都金沢”として、より多くの大学間連携による「忍者パルクール」を金沢の地から世界に向けて発信して行きたい。